

## SABS Journal No. 86

発行日 2016年11月21日(火)

URL <http://www.sabsnpo.org>

このジャーナルはもともとバイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)内部向けのものでしたが、数年前から、少しでもバイオテクノロジーに、ご関心のありそうな方々に向けても配信しております。ご興味の無い方は返信して**配信不要の旨**をお知らせください。

前回も書きましたが、前理事長奥山典生都立大名誉教授が昨年夏急逝されるまでこのメールマガジンでは毎回様々な分野にわたり、奥山先生が次から次へと溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後出来るだけ先生のご遺志を継ぎ協会を続け発展させて行こうと定例会では会員の方々が毎回次々といろいろな方々がご専門の蘊蓄を傾けることで先生のご遺志を継ぎ、会員各位の親睦と勉強の一助となるよう努めて参りました。このジャーナルを読んで下さる方々は現在数百名に上ります。ぜひ読者の中からも話題提供をして下さる方が出て頂けることを期待しています。このメールに返信して頂ければ幸いです。ご感想、エッセイなどもお待ちしております。

### 1) 昨日・今日・明日

毎年、前年より暑い夏が続き、急に秋になったかと思ったら、今度はまだ11月というのにあっという間に冬めいて来ました。秋が非常に短くなった感じですが、こうした“異常気候”がどんどん常態化してくるのが温暖化の一面だといわれています。この温暖化防止のための国連気候変動枠組条約第22回締約国会議(COP22)が地球温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」に実効性を持たせる詳細ルールを2018年までに決めることで合意し閉幕した折も折、最も大量の温暖化ガスを排出しているアメリカは協定から離脱すると宣言していた人物が何と次期大統領に当選。これから大変なことになりそうです。

さて、前回も書いたように、当協会は旧緒方研(財団法人緒方医学化学研究所)の発行していた“医学と生物学”誌(平成25年(2013)に廃刊)の再発行を目指しています。これに関連して、前回の第78回定例会では、奥山先生と本協会(SABS)の立ち上げに関わり、今日まで運営を支えて来られた荒尾進介理事にお話し頂きました。

荒尾さんは大学では獣医学を専攻し獣医師の資格をお持ちですが、永いこと診断薬メーカー(株)ヤترون(現LSIメディエンス)で臨床検査関係のお仕事をして来られ、奥山先生とはその関係で緒方研やSABSと関わって来られました。洪庵の創始した適塾の門下生などなど生前の奥山先生が折にふれ話されて居られましたがSABS設立の経緯と緒方医学化学研究所(緒

方研) のこと、医学と生物学速報会発行の雑誌「医学と生物学」等など、現在本会の中で事情を最も良くご存じの方です。お話は、緒方研の創始者である血清学者で東大医学部教授であった緒方富雄博士(1901-1989)の曾祖父にあたる緒方洪庵(1810-1863)から始まりました。洪庵が1838年に開いた適塾は25年間続きその間三千人もの塾生が切磋琢磨し、幕末に活躍した多くの人材を輩出したので有名です。主な門下生には大鳥圭介、大村益次郎、福澤諭吉、高峰譲吉、長與専齋、佐野常民、橋本左内などの他、手塚治虫の曾祖父手塚良庵がいます。適塾は大阪大学医学部の前身とされ、阪大出身で大学院では医学部に出入りされていた奥山先生が東京都立大学に赴任されて東京の緒方研に深く関係されたことは容易に想像できます。財団法人緒方医学化学研究所(Ogata Institute for Medical and Chemical Research)は、1948年に始めは財団法人血清学振興会として緒方博士が設立した研究所です。荒尾さんは血清学の権威としても著名であった生前の緒方富雄博士をご存じでそこで奥山先生とも関係し、2006年に現在のバイオテクノロジー標準化支援協会の設立に至ったという経緯です。緒方研は2013年(平成25年)公益法人法の改正にともない解散するまで医学、歯学、薬学、生物学関係の研究調査を主とし、1942年(昭和17年)に創刊された発行誌『医学と生物学』(Medical and Biology)は、アメリカ化学会(ACS)のChemical Abstractにも編纂されており、国際的にも評価のある学術誌でした。また緒方研は蘭学に関する調査研究においても有名であり、同研究所では杉田玄白、緒方洪庵、小石元瑞など著名かつ貴重な数多くの書籍を含む蘭学文庫を所有していることでも知られていました。緒方研の解散後はこれら蘭学文庫の書籍は阪大に移転されたそうです。

さて、次回の定例会は恒例により11月には開かず、12月2日(金)に忘年会を兼ねて行います。話題提供は、「国産ペニシリン開発史」ということで、長年東洋醸造・旭化成で抗生物質の開発研究をされてきた松本邦男神奈川工科大学名誉教授にお話しを伺うことになりました。

松本先生のご経歴：昭和40年 東京理科大学理学部化学科を卒業、同大学院修士課程修了し、東北大学理学部と東京医科歯科大学硬組織生理研究施設にて田宮信雄教授に師事し生化学を学ぶ。昭和42年 東洋醸造株式会社入社・平成4年 旭化成工業株式会社との合併に伴い診断薬事業部に移る。研究部長、工場長、営業部長、子会社役員を務める。研究開発：酵素工学を中心に、①  $\beta$ -ラクタム系抗生物質、② 固定化酵素、③ バイオリアクター、④ バイオセンサー、⑤ 臨床検査薬など、平成8年 東京大学にて博士号(農学)取得。平成8年 神奈川工科大学 工学部応用化学科 教授・平成18年 工学部 応用バイオ科学科(新設) 教授(学科長)・平成20年 応用バイオ科学部(新設) 応用バイオ科学科 教授(学科長)・平成21年 理事・副学長・学部長に就任・平成22年 応用バイオ科学部 栄養生命科学科(新設) 教授(学部長)・平成24年 神奈川工科大学を定年退職。平成24年 栄養生命科学科特任教授、教育開発センター副所長、教育開発センター 顧問を経て現在神奈川工科大学名誉教授。

松本先生からのメッセージ（抄録）：

9月30日まで、神奈川工科大学に20年間勤務しておりましたが、学生の頃（昭和40年頃）から東京都立大学に出入りしており、それ以降、奥山先生には大変お世話になった関係で、大学に赴任した頃には先生がよく訪ねて下さいました。先生がお元気な頃、私のライフワークにしていた「国産ペニシリン開発史」に関するパワーポイント資料（印刷物）をお送りしたことがあります。先生はわざわざ印刷物からCDにコピーして私のところにも送って下さいました。その後先生からは連絡がありませんでしたが、最近そのCDがSABSの61回定例会資料（e-Library II, Journal No.069「国産ペニシリン物語」）として保管されていることを知り、驚いていたところでした。まだまだ「国産ペニシリン開発史」についての調査・研究は続けているのですが、一端立ち止まって、これまでの内容をパワーポイント資料として取敢えず整理しました。以前、奥山先生にお送りしたのものには誤りや誤字脱字等もありますので、改めて「国産ペニシリン開発史」としてまとめました。

「国産ペニシリン開発史」の調査・研究を通じて、大きな輪が広がり、私自身驚いているところです。調査・研究の過程で「化学史学会」とも出会いました。化学史学会事務局長からの依頼で昨年と今年の「化学史研究発表会」で発表もしました。

大学勤務中は当然ながら研究も手掛けておりましたが、学科・学部の設置や大学教育改革などに多くの時間がとられ、この10年ほどは大学教育に時間をさいておりました。学生教育の中で、「Active Citizen」（地域社会に積極的に参加する市民）育成が大きな課題になっていますが、退職を機に、私は市民と一緒にサイエンスを語る活動「Citizen Scienceの育成」に取り組みたいと考えています。

奥山先生からは、以前からSABS定例会に誘って頂いていたのですが、つい行きそびれてしまっていました。今回、最先端の研究成果ではございませんが、奥山先生を偲びながら「国産ペニシリン開発史」についてお話でもさせて頂ければと思っております。これからは、少しでも社会に還元できることがあれば積極的に協力したいと考えています。相田みつをの詩に、「一生勉強 一生青春」というのがありますが、身体が動く間は頑張ろうと思っているところです。

＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

## 2) 第78回定例会のおしらせ。

\*\*\*\*\*

### バイオテクノロジー標準化支援協会 第78回 定例会

\*\*\*\*\*

日時： 2016年12月2日(金) 14時00分 - 16時00分

場所： 八雲クラブ (首都大学東京同窓会)

演題： 「国産ペニシリン開発史」

演者： 松本邦男神奈川工科大学名誉教授

参加費： 無料

恒例により、12月定例会のあと、ささやかな忘年会を八雲クラブで行います。

ぜひご参加ください。

八雲クラブへの道順：

渋谷駅から井の頭通りの坂を東急ハンズ目指して上り、ハンズ建物を過ぎ交差点角を右に回って直ぐまた右に曲がるとハンズ裏搬入口になります。その隣の建物がニュー渋谷コーポラスです。入口奥のエレベーターで10階に上がり直ぐ右隣です(添付地図参照、赤丸印)。



＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。お待ちしております。またぜひ「昨日・今日・明日」にもご投稿ください。内容・字数は自由です。

また話題提供も大歓迎です。時間は2時間程度ですが短くても長くても(この場合は2回以上に分けますが)また内容も自由です。ぜひ皆さまのご参加をお待ちして居ります。

＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

ホームページ [＜http://www.sabsnpo.org＞](http://www.sabsnpo.org) に e-library のリストがあります。会員の方はその中からご希望のものをご指摘ください。

- ① 配信停止・中止希望の方、
- ② 配信先等、登録情報変更希望の方、
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録を希望される方は、このメールに返信して、その旨お知らせください。こちらよりご連絡差し上げます。
- ④ ウェブサイトに関するご意見も返信にて頂ければ幸いです。

(NPO) バイオテクノロジー標準化支援協会

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail [sabs.elibraly.i@gmail.com](mailto:sabs.elibraly.i@gmail.com) ; URL <http://www.sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介；小林英三郎；田坂 勝芳；松坂 菊生；檜山 哲夫

監事：堀江 肇